

令和5年度「タブレット端末児童生徒アンケート」の結果について（報告）

1 目的

タブレット端末の学校や家庭での活用状況等について、児童生徒の実態を把握し、どのような対応や支援が必要なのかを検討し、今後の取組に生かす。

2 調査概要

【実施期間】 令和5年11月10日（金）～令和5年11月28日（火）

【回答数】

アンケート対象	回答数	市内児童生徒数	回答割合
小学校下学年	3,563	4,530	79%
小学校上学年	3,231	4,671	69%
中学校	2,582	4,268	60%
合計	9,376	13,469	70%

3 成果と課題

【成果】

- ① タブレット端末を用いた学習は、児童生徒が「楽しい」と感じている、「わかりやすい」と感じている割合が高いことから、児童生徒の関心意欲を高め、学習への理解につながっていると考えられる。
- ② 授業において、小学校下学年では、「A1型デジタルドリルを活用する」「動画や写真などをとる」、小学校上学年、中学校では、「インターネットを使って調べ学習をする」、「友達と一緒に新聞やパワーポイント資料などをつくる」が上位となった。また、「自分の意見や考えを書いたり、発表したりする」や「友達の意見や考えを知る」、「グループ内の意見を集約しまとめる」など、授業においてタブレット端末を活用し、友達と情報を共有したり協働的に学び合ったりするなどの活動が行われている。教科や単元、学年により活用の幅が広がっている。
- ③ 家庭におけるタブレット端末の使用頻度について、52%（前年度比12%増）が使用しており、前年度より大幅に伸びた。小学校下学年が一番使用している。

【課題】

- ① 学校でのタブレット端末の使用状況を見ると「1週間に1日」以下の割合が29%（前年度比▼1%減）であった。また、校種や学年により使用頻度に差が見られ、「ほとんど使わない」が約9%いる。
- ② 「困ったことや心配なことはあるか」については、「タブレット端末の重さ」と回答した全児童生徒の平均は約25%（前年度比▼17%減）であった。特に、中学生が35%と一番高い数値であり、更なる児童生徒への負担軽減を図る必要がある。
- ③ 「操作がわからない」と回答した全児童生徒の平均は、前年度よりも下がったものの約13%（前年度比▼8%）いるので、丁寧に指導していく必要がある。

4 教育委員会の取組

(1) 授業支援と授業改善をめざす取組

- ① 「一人一人の児童生徒がわかる・できるを実現するタブレット活用」をめざし、指導主事及びICT学習指導員が活用事例を示して指導するとともに、ICT学習指導員による定期的な学校訪問を引き続き実施する。
- ② 効果的なタブレット端末の活用について十分な知識をもっているICT支援員を積極的に活用し、特に下学年への授業での活用や対応を行う。
- ③ ICT活用教育研修の充実を図り、教職員の要望に応じた実践的な研修を実施する。年1回以上、教師の情報セキュリティ能力や情報モラル向上のための研修を実施する。
- ④ L-Gateの活用を促すため、L-Gate内にある「毎日の記録（心身の健康アプリ）」、「AI型デジタルドリル」や「ナラシド♪ライブラリー（電子図書）」、「タイピング」等の児童生徒にとって効果的なアプリの活用について周知する。
- ⑤ 指導者用デジタル教科書の効果を教科会議や教科主任研修等で確認、周知し、活用を促すとともに、学習者用デジタル教科書の利用環境を整え、学校、家庭での活用を図る。
- ⑥ 各校で実践した効果的なICT活用事例をまとめた冊子やICTにかかわる情報をデータで配信し（サーバーX:）、校内研修等での活用を促す。

(2) 人材育成を図る取組

- ① ICTマイスター育成事業を継続し、各校でICT教育を推進できる人材の育成を図る。令和4～6年度において約90名のICTマイスターを育成する。
- ② ICTマイスターを中心とした校内研修の積極的、計画的な実施を推奨する。

(3) 家庭との連携を図る取組

- ① 家庭でのタブレット端末活用を推進し、各校に対し宿題の例示や課題について周知する。「AI型デジタルドリル」や「ナラシド♪ライブラリー（電子図書館）」、「タイピング」等のアプリの更なる活用を図るように周知する。

5 学校の取組

(1) 授業における「わかる・できる」を実現するタブレット活用

- ① 授業において、「児童生徒がわかる・できるを実現するタブレット活用」をめざし、効果的な活用になるよう、ICT学習指導員やICT支援員との連携・協力を図る。さらに、ICT支援員を積極的に計画的に活用する。
- ② L-Gate の積極的な活用を促す。「毎日の記録（心身の健康アプリ）」、「A I型デジタルドリル」や「ナラシド♪ライブラリー（電子図書）」、「タイピング」等の児童生徒にとって効果的なアプリの活用を推進する。

(2) ICTマイスターの積極的な活用

- ① ICTマイスター1～3期生の積極的な活用を図り、実践的な校内研修を定期的を実施し、授業での活用方法やタブレット端末の基本的操作等について扱う。
- ② タブレット端末の活用推進による授業力向上のために、ICTマイスターや情報主任を中心とした校内体制づくりを図る。例えば、学力向上推進委員会、研究推進委員会、ICT部会等の委員とする。

(3) 児童生徒の基本操作・ルールやマナー等の定着

- ① 「児童生徒の学年別ICT活用スキル一覧（達成目標）」をもとに、発達段階に応じた基本的スキルの定着を図る。
- ② 市青少年センターの主催、情報モラル教育の一環として、児童生徒に対し「インターネット適正利用啓発学習会」等の学習に取り組む。
- ③ 「文房具」としてタブレット端末をいつでもどこでも使用することができるように、日頃から必要に応じて使用させるように努める。

(4) 家庭での活用の推奨と学校での活用実績の周知

- ① タブレット端末を活用して行う課題を指示する。「A I型デジタルドリル」や「ナラシド♪ライブラリー（電子図書館）」、「タイピング」等の児童生徒にとって効果的なアプリを活用し、家庭学習の充実を図る。
- ② 授業参観時にタブレット端末を活用した授業を実施したり、学校からの便りを用いて、授業でのタブレット活用の現状や良さを広く保護者に周知したりするなど、啓発や広報を積極的に行う。

(5) 持ち帰り荷物の負担軽減を図る

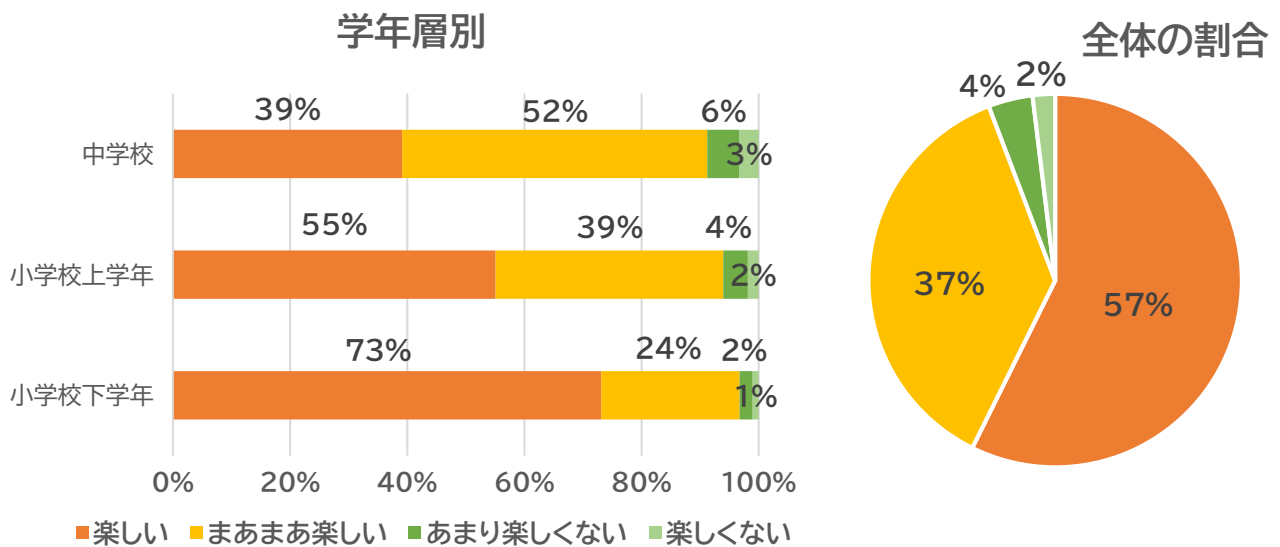
- ① 「持ち帰り荷物」の精選を確実に行う。
教育委員会から提示した以下の内容を参考に、各校が更なる負担軽減策に取り組み、実態に応じて、選択したり、組み合わせたりして実施する。
○週末の持ち帰り荷物の精選をする。
 - ・教科書類を持ち帰らず、タブレット端末のみとする。
 - ・連絡帳もタブレット端末を使用する。
 - ・週末の家庭学習は、タブレット端末で実施できるものとする。○タブレット端末の本体のみを持ち帰り、キーボード部分は学校に置いておく。

令和5年度「タブレット端末児童生徒アンケート」の結果

令和3年度より始まった一人一台タブレット端末の運用の実態について、市内全小・中学校の児童・生徒を対象にアンケート調査を実施した。本調査では、タブレット端末の活用における学習効果や学校や家庭での活用、タブレット端末の持ち帰りについてなど質問した。

1 タブレット端末のもたらす学習意欲の向上と学習効果について

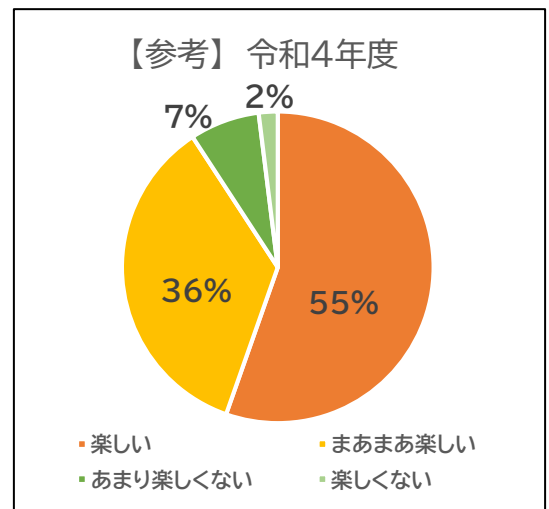
設問1「タブレット端末を使った学習は楽しいですか」



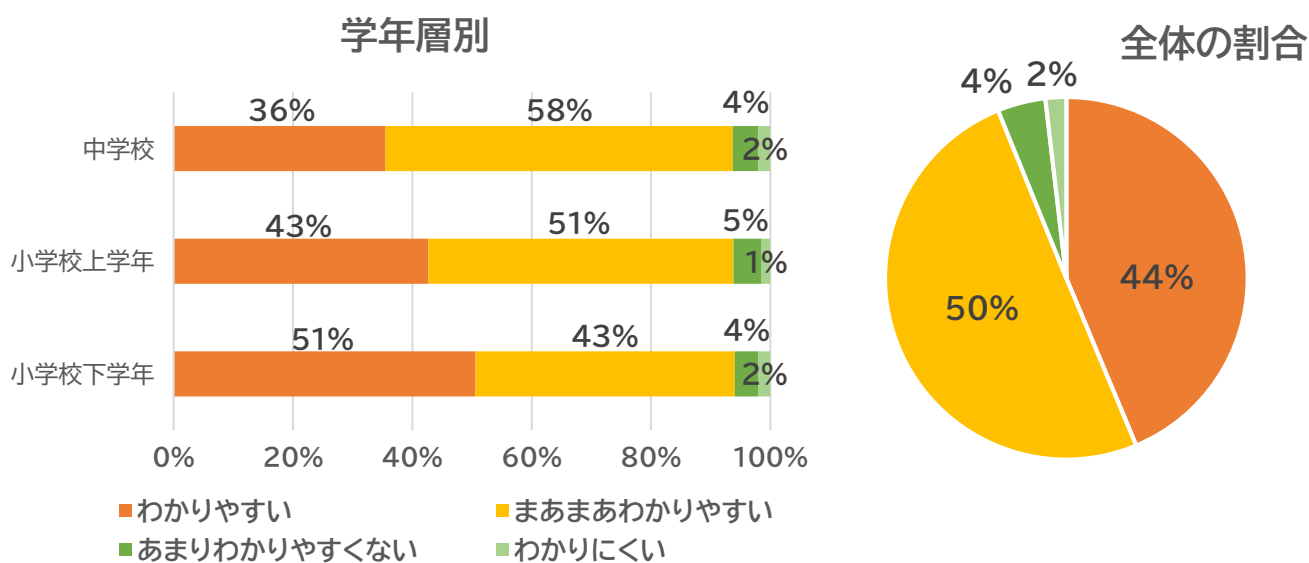
【結果】

設問1の結果から、94%（前年比3%増）の児童生徒がタブレット端末を使った学習は、「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答し、特に小学校下学年が「楽しい」と回答した割合が73%と一番高かった。

一方、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答している層が6%（前年比▼3%減）おり、小学校上学年以上から増加傾向にある。理由として、「操作の難しさ」、「タイピングが遅い」などを挙げており、苦手意識をもっている児童生徒が一定数いることがわかる。また、「起動するまでの時間が長い」、「接続が悪い」などの通信環境に関する回答が複数あった。



設問2 「タブレット端末を使った学習はわかりやすいですか」

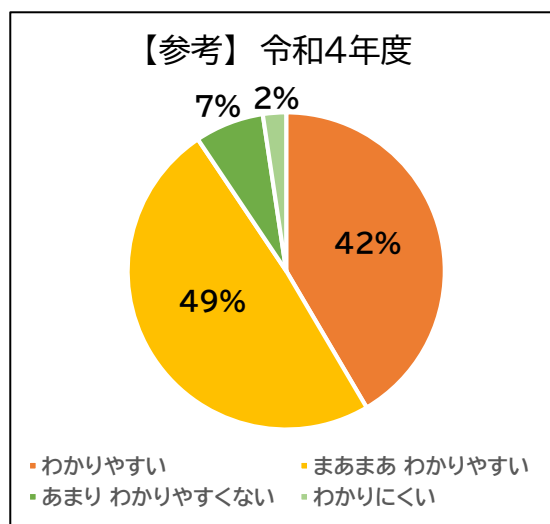


【結果】

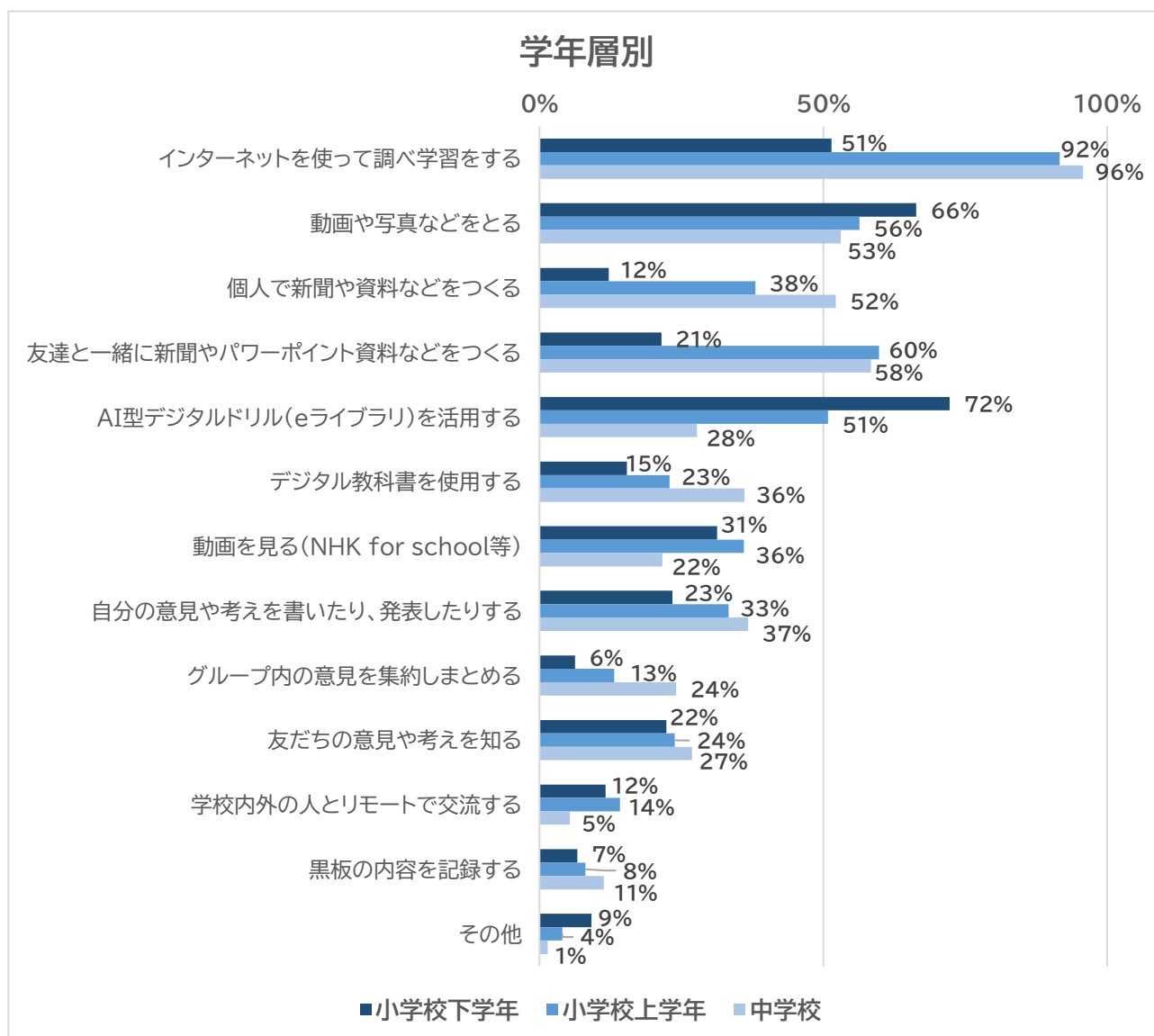
設問2の結果から、94%（前年比3%増）の児童生徒がタブレット端末を使った学習は、「わかりやすい」「まあまあわかりやすい」と回答している。特に小学校下学年が「わかりやすい」と回答した割合が51%と一番高かった。

一方で、「あまりわかりやすすくない」「わかりにくい」と回答した層が6%（前年比3%減▼）おり、理由としては、小・中学生ともに、「操作の難しさ」や「タブレット端末への苦手意識」など、設問1と同様の理由を挙げている児童生徒がいる。

設問1・2の結果より、タブレット端末を用いた学習は、児童生徒が「楽しい」と感じている、「わかりやすい」と感じている割合が高いことから、児童生徒の関心意欲を高め、学習への理解につながっていると考えられる。



設問3 授業においてどのようにタブレット端末を活用していますか。(複数回答可)



【結果】

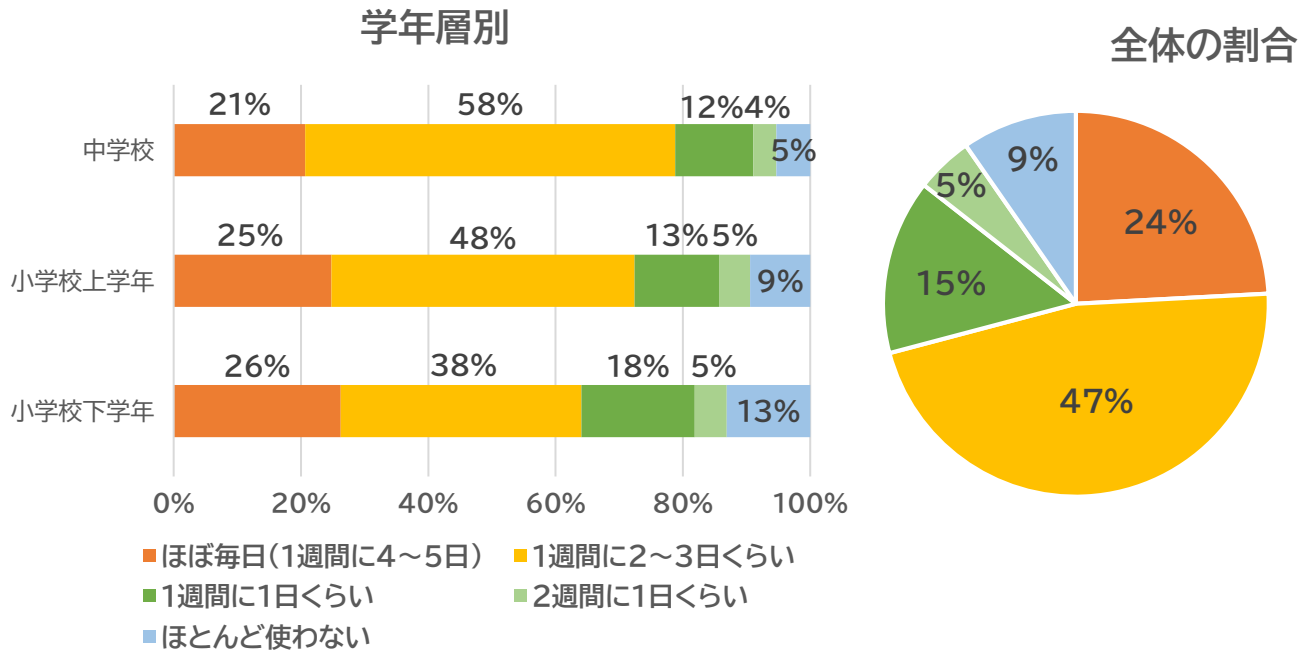
設問3の結果から、小学校下学年では、①「AI型デジタルドリルを活用する」、②「動画や写真などをとる」、③「インターネットを使って調べ学習をする」順となり、小学校上学年、中学校では、①「インターネットを使って調べ学習をする」、②「友達と一緒に新聞やパワーポイント資料などをつくる」、③「動画や写真などをとる」が上位となった。

また授業において、「自分の意見や考えを書いたり、発表したりする」や「友達の意見や考えを知る」など、小学校上学年、中学校では、友達と情報を共有したり協働的に学び合ったりするなどの活動が30%前後の割合で行われている。また、「AI型デジタルドリルを活用する」、「デジタル教科書を使用する」については、校種間において差がある。

「その他」と回答した内訳は、特に小学校では、「タイピングの練習」や「ナラシド♪ライブラリー（電子図書館）」、「プログラミング学習」で活用している。

2 タブレット端末の使用頻度について

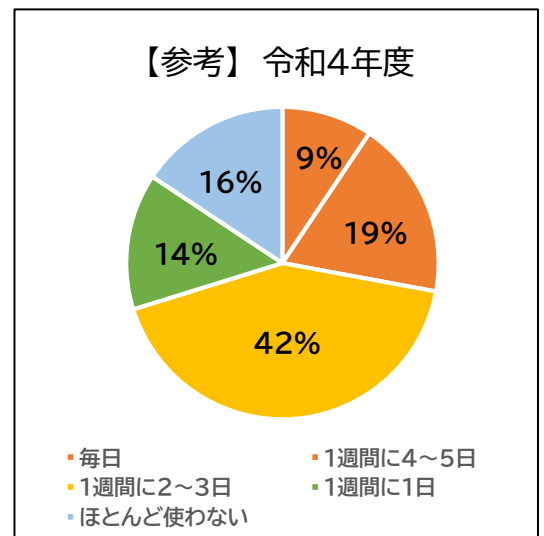
設問4 学校でどのくらいタブレット端末を使っていますか。(全体)



【結果】

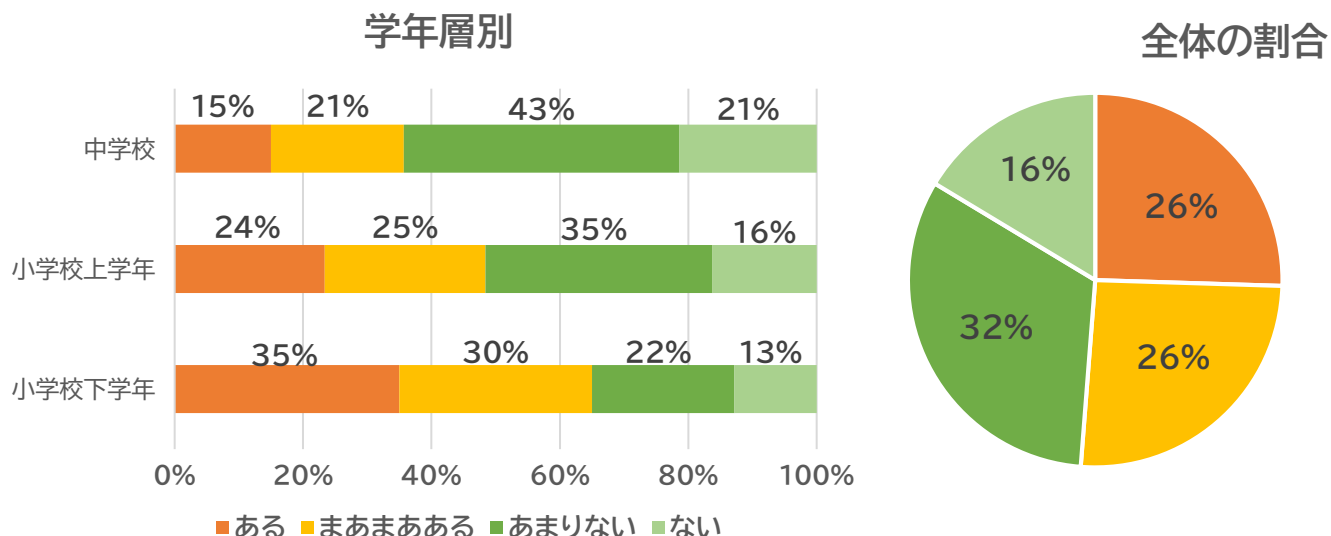
設問4の結果から、「週に2~3日」が全体の47%と最も多く、「ほぼ毎日」と合わせると71%である（前年比1%増）。学年層別に「ほぼ毎日」「1週間に2~3日」を合わせると、小学校下学年では64%（前年比4%増）、小学校上学年では73%（前年比▼2%減）、中学校は79%（前年比3%増）である。傾向としては、前年度同様、学年が上がるほど使用率は高くなっている。

一方、全体の割合のグラフから「1週間に1日」以下の学級が29%ある中で、「ほとんど使わない」と回答した9%のうち、小学校下学年の割合が約半数を占めている。



3 家庭におけるタブレット端末の使用頻度と課題について

設問5 家でタブレット端末を使うことはありますか。

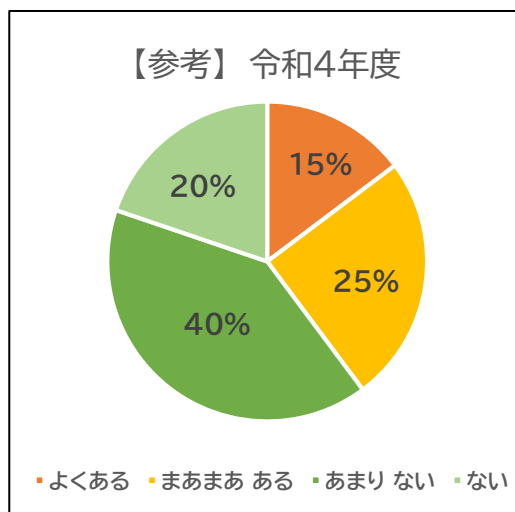


【結果】

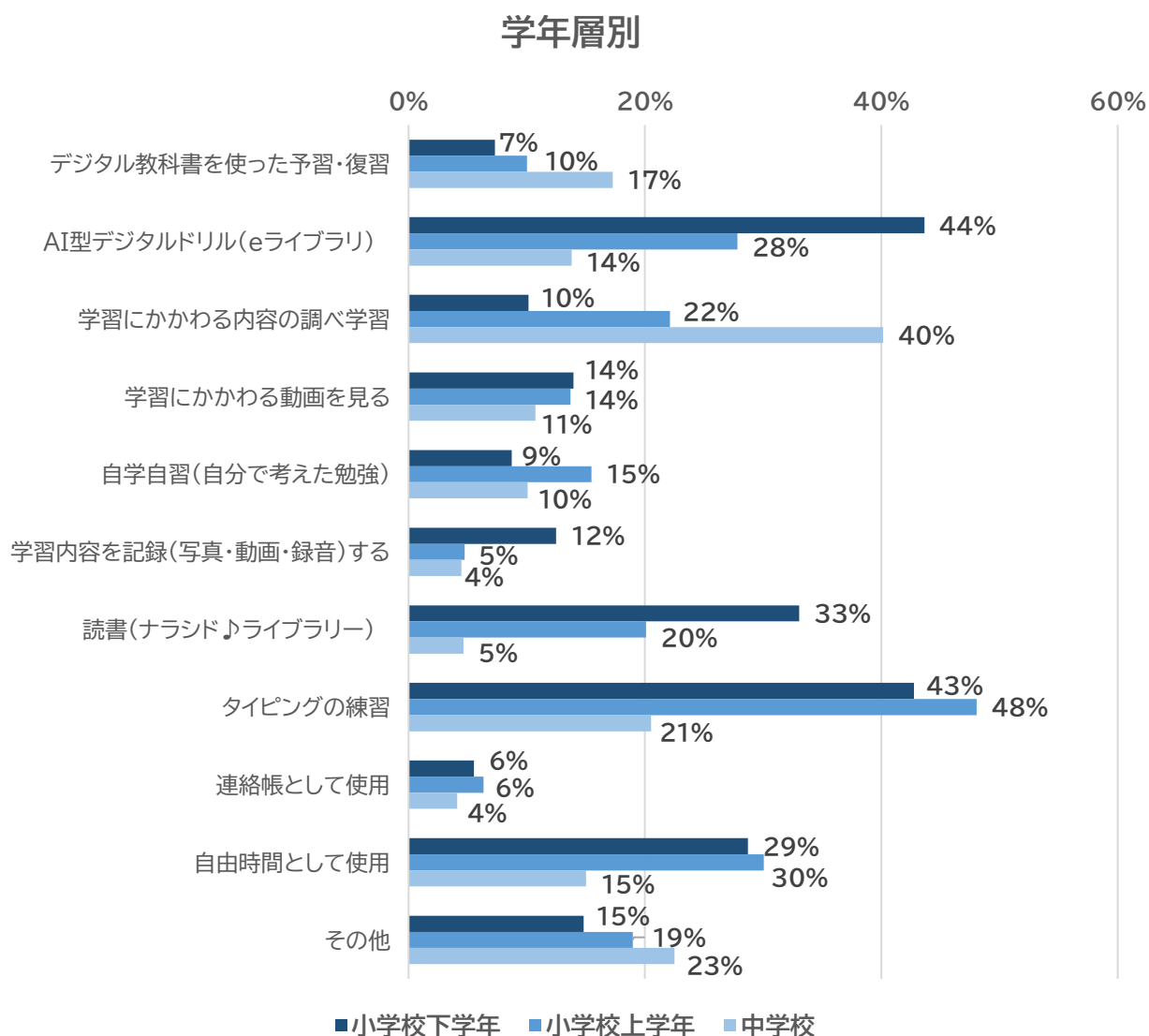
全体の割合の中で、「ある」「まあまあある」を合わせると52%（前年比12%増）の児童生徒が家庭でタブレット端末を比較的頻繁に使用しており、前年度よりも数値が大幅に増加している。

学年層別に「ある」「まあまあある」を合わせた割合は、小学校下学年では65%（前年比17%増）、小学校上学年では49%（前年比8%増）、中学校では36%（前年比7%増）である。傾向としては、前年度同様、小学校下学年の使用率が高くなっている。

使用頻度が高まった理由として、各校がタブレット端末を使用した宿題や課題を日頃から提示していること、家庭で行えるAI型デジタルドリルやナラシド♪ライブラリ（電子図書館）等のソフトが充実してきたことが挙げられる。今後、AI型デジタルドリル等の更なる活用により、家庭での使用が広がっていくことが期待できる。



設問6 「家では、タブレット端末をどのように使用していますか。」（複数回答可）



【結果】

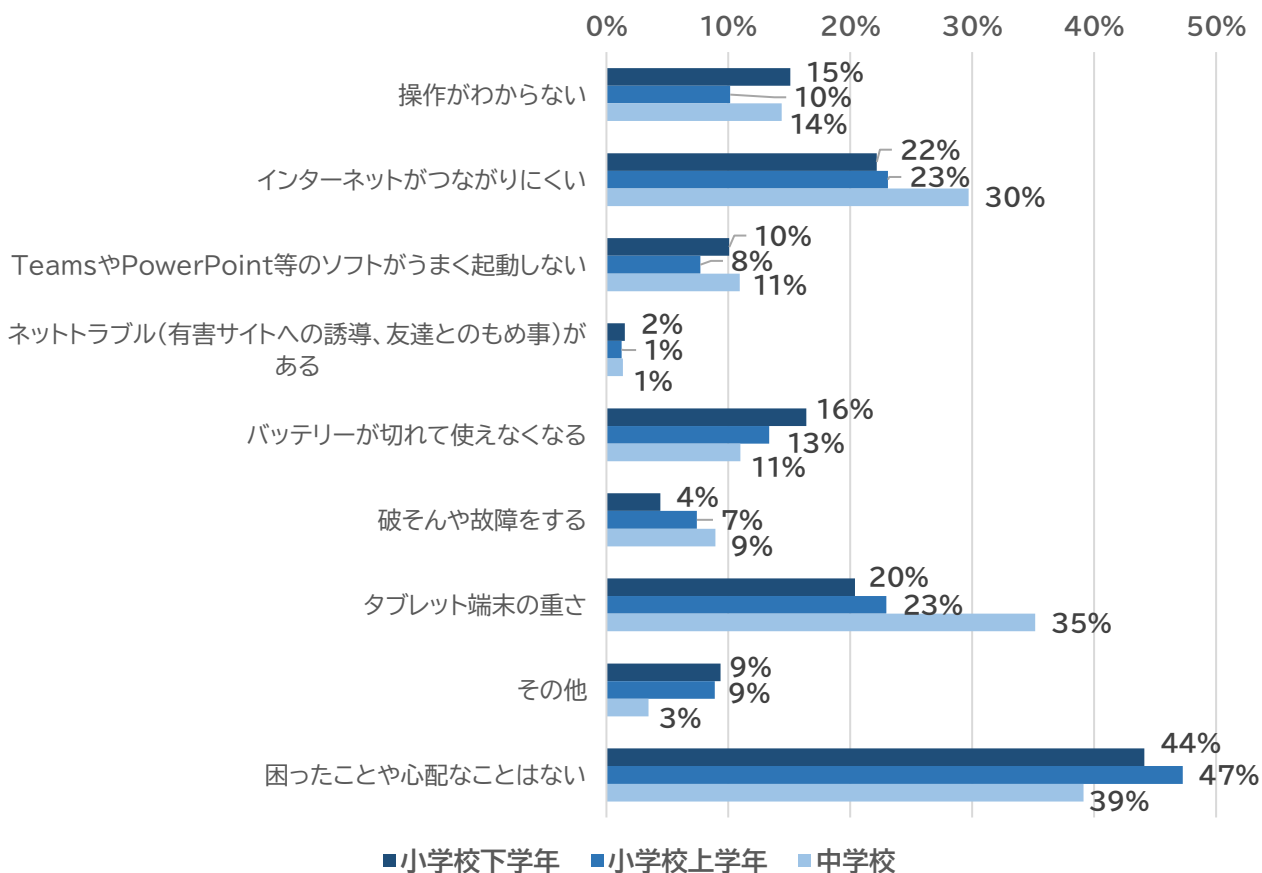
「家庭でのタブレット端末の使用」の内訳として、小学校下学年、上学年、中学校を合わせた全体の割合で見ると38%が「タイピングの練習」を行っており、次に30%が「AI型デジタルドリル」を活用している。

学年層別の詳細を見ていくと、小学校下学年では、①AI型デジタルドリル、②タイピングの練習、③読書（ナラシド♪ライブラリー）として使用し、小学校上学年では、①タイピングの練習、②自由時間、③AI型デジタルドリルの順となった。中学校では、①学習にかかわる内容の調べ学習、②その他、③タイピングの練習の順になった。

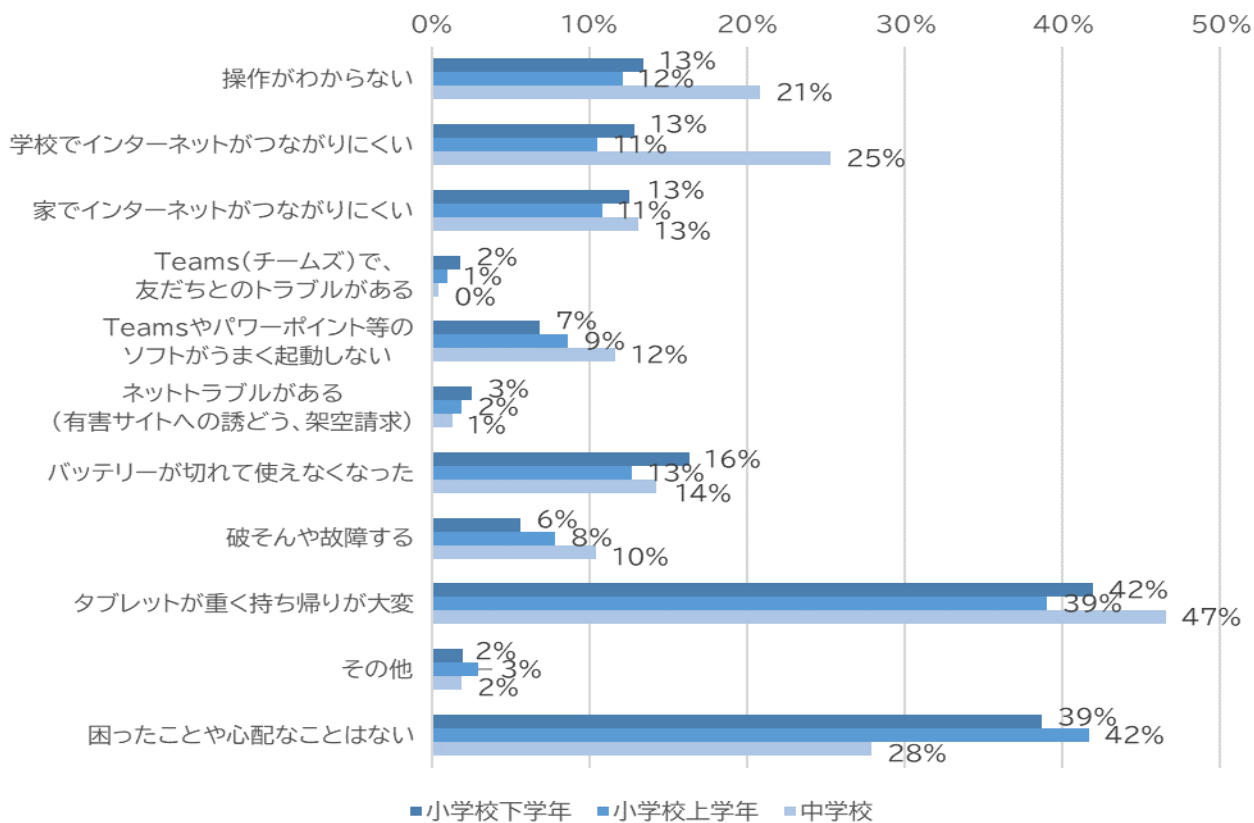
「その他」の内訳をみると、小学生は、プログラミング、趣味や部活動に関する動画視聴、PowerPointの使用等で活用し、中学生は、課題の資料作成、生徒会活動や部活動における資料作成や動画視聴等で使用している。校種によって使用内容に違いが見られる。

設問7「タブレット端末を使っていて困ったことや心配なことはありますか。」(複数回答可)

学年層別



【参考 令和4年度】



【結 果】

「困ったことや心配なこと」の内訳として、小学校下学年、上学年、中学校を合わせた全児童の平均から高い順に見ると、①「タブレット端末の重さ」と回答した児童生徒が約25%（前年度比▼17%減）であった（令和4年度の「タブレットが重く持ち帰りが大変」と表記に多少の違いはあるが意味合いとしては同じと捉える）。今年度の取組として、持ち帰る教科書等の精選を各校で工夫して行っていることが一定の効果として表れていると考えられる。また、令和4年度同様、中学生の割合が一番高く、部活動や教科書・ワーク等の持ち帰る荷物が増えることが要因として考えられる。

以下に、②「インターネットがつながりにくい」、③「バッテリーが切れて使えなくなる」、④「操作がわからない」の順になっている。「インターネットにつながりにくい」については、タブレット端末の使用法の工夫や対応によって改善できると考えられるので各校に周知していく。「操作がわからない」という児童生徒が小学校下学年、上学年、中学校を合わせた全児童生徒の平均で約13%いる。「児童生徒の学年別ICT活用スキル一覧（達成目標）」を参考に、発達段階に応じた基本的スキルの定着を図る時間をしっかりと確保したい。

また、「困ったことや心配なことはない」と回答している小学校下学年は44%（前年度比5%増）、小学校上学年で47%（前年度比5%増）、中学校では39%（前年度比11%増）となり、令和4年度の調査と比較すると困り感が少しずつ減ってきていると言える。